

星と友達

奄美市立小宿中学校 一年 森 千花

ある夜のこと、一匹のハブが、奄美の満天の空を見上げていました。

「僕も、あの星たちのように、友達に囲まれていたいなあ。」

いつも一匹でいるハブには、友達がいません。それに、毒を持っているから、森の動物たちに恐がられています。「この毒さえなければ、友達ができるのに。」

ハブは、満天の星に、毒がなくなるようにお願いをしました。

けれども、星は願いを叶えてはくれませんでした。怒ったハブは、星を一つずつ壊していきましました。「バリン。」一つ。「バリバリ。」また一つ。「バリバリ、ガツシャーン。」とうとう全部の星を壊してしまいました。

夜の空は真っ暗になり、森の動物たちは困ってしまいました。アマミノクロウサギは、体が黒いので姿が見えなくなり、ルリカケスは、暗くて前が見えないので、上手に飛べなくなりました。イシカワガエルは、池がどこにあるかわからないので、卵を産むことが出来なくなっ

てしまいました。

ハブは、そんなこととも知らず、怒り続けました。

森の動物たちは、夜が来るのを恐がるようになりましました。このままではいけないと、アマミノクロウサギ、ルリカケス、イシカワガエルは話し合いをすることにしました。

「僕達で星を作ろうよ。」

「そうだね。そうすると、私たちルリカケスは夜の空を飛ぶことが出来る。」

「それに、私たちイシカワガエルも、夜に安心して卵を産むことが出来るわ。」

「僕たちクロウサギも、夜に姿が見えなくなることがなくなるよ。」

なんと、みんなは自分たちで星を作ることに決めたようです。

「でも……。僕たちが星を作ったところで、空に戻すことは出来ないよ。」

「星を作れても、光らせることができないね。」

「星を壊すことが出来たハブなら、反対に星を光らせて空に戻すことが出来るかもしれないね。」

「でも、ハブは毒を持っているんだよ。近付けばみんなかまれて死んじゃうよ。」

クロウサギたちは、考えて考えて、何時間も何日も考え

続けました。

するとある日、森の奥深くからマングースがやってきました。なかなかいい方法が思いつかないクロウサギたちは、マングースにも相談することにしました。

「暗い夜をどうにかするために、自分たちで星を作ることにしたの。作った星を光らせ空に戻すにはハブの協力が必要なんだけど、でも、恐くて近づけなくて……。」

「じゃあ、俺がハブに話をしてくるよ。」

マングースはそう言って、ハブの所に行ってしまうした。

クロウサギたちは喜ぶどころか、とても心配していました。

「もし、マングースが戻って来なかったらどうしよう。」

「このままでは、マングースはハブの毒にやられてしまうかもしれない。」

「そっ、そんなことないよ。きっともうすぐ帰って来るよ。」

らとルリカケスやイシカワガエルが止めましたが、とうとう行ってしまいました。

その頃、ハブの所では、マングースが楽しく遊んでいました。ハブが友達を欲しがっているということを知り、マングースは友達になってあげていたので。沢山遊んだあと、マングースはハブに、

「ハブにお願いがあるんだ。星を元に戻す手伝いをしてくれないか。」

と言いました。ハブは答えました。

「僕に何が出来るの。」

「君の毒さえあれば、星を元に戻すことが出来るらしいんだよ。」

「わかったよ。僕が星を壊してしまったんだから、直すことが出来るのなら手伝うよ。」

ハブとマングースは、クロウサギたちのいる所へ帰ることにしました。帰っている途中で、クロウサギに会いました。心配していたクロウサギは、マングースが無事なことを知り、ほっとしました。それと同時に、ハブとマングースが友達になっっていることに驚きました。ですが、マングースから事情を聞き、クロウサギもハブと友達になりました。

森の動物たちのいる所へ帰り着くと、ハブは、星を壊して迷惑をかけたことを謝りました。すると、森の動物

たちは

「もういいよ、君を許すよ。」

と言いました。

「本当に許してくれるの。」

「当たり前だよ。」

「私たちの方こそ、ハブ君の気持ちも知らずに恐がったりしてごめんね。」

ハブも森の動物たちもお互いに話し合い、一緒に星作りを始めました。

イシカワガエルたちが。パサパサの土を水でぬらして粘土のようにしたら、次はクロウサギたちが器用な手で星の形を作り、ルリカケスたちが翼であおいでそれを乾かしていきます。さあ、ここからはハブの出番です。星の形の粘土一つ一つにかみついていきます。すると、星が一つずつ光り始め、どんどん空へ上っていきました。ハブの毒が、星の力となったのです。それを見たハブは、そうか。僕の毒も何かの役に立つんだなあ。」

これまで嫌なものとしか思っていなかった自分の毒でしたが、みんなの役に立ったことで、思わずそうつぶやいたのです。

ハブは、星を作る力だけでなく、大切な大切な「友達」という名の宝物が出来ました。星が元に戻り、夜空には満天の星が輝いています。アマミノクロウサギは、夜も

姿が見えるようになりました。ルリカケスはまた上手に空を飛べるようになり、イシカワガエルも無事に卵を産めるようになりました。

今日も、みんなが見ている夜の空には、沢山の美しい星が光っています。それは全て、ハブやクロウサギたちが作った星かもしれませぬ。

【評】ストーリー展開が巧みで、現状を嘆くのではなく、前向きにみんなが星を作る場面などが生き生きと描かれています。自分の短所が長所になるハブの姿に読者は自分を重ね、生きることの素晴らしさを考えることでしょう。

(大島教育事務所 学校教育課
指導主事兼指導係長 山 宗功)